

まちづくりにとってアーティストの存在は欠かせません
街の雰囲気やブランドイメージに資するだけでなく
身近なアートへの接近性が「街の居心地」を大きく左右するからです
人、環境、地域資源、マーケット…
アーティストは何を求めて創作の場を選択するのか？
新型コロナの感染拡大により地方移住が注目される今
移住を実現したアーティストたちのお話を伺いながら
彼らの移住を促すためには何が必要なのかを考えたいと思います

地方移住 をめぐる 公開 シンポジウム

アーティストの 移住スイッチは どこ？

Image by macrovector_official on Freepik

入場無料
要予約

2022年 11月30日(水)

第1部 プレゼンテーション

18:00～19:45 開場 17:30

なぜ、わたしは地方移住したか？

詩人 桑原 滝弥 氏、萩焼作家 牧野 将典 氏 の御二方によるプレゼンテーション

第2部 パネルディスカッション

創作の場としての山口 ～ アーティストは地方に何を求めるのか

パネリスト: 桑原 滝弥 氏、牧野 将典 氏

モデレーター: 山本 悟 (山口県立大学大学院国際文化学研究科修士課程)

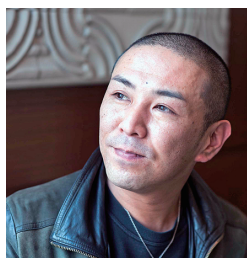
斉藤 理 (山口県立大学国際文化学部 教授)

会場 | 山口県立大学 北キャンパス 3号館5階 C546教室
山口市桜畠6-2-1 ハイブリッド方式(対面・ZOOM併用)



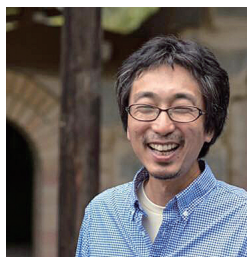
公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

登壇者プロフィール



桑原 滝弥 Takiya KUWAHARA

詩人、詩芸企画「詩人類」代表。1971年、三重県四日市市出身。
1986年、俳優として初舞台を踏み、その後、演劇・音楽パフォーマンス活動を経て、
1994年に詩作を始める。処女作『えりなのプロフィール』が新潮文庫に収録される。
「あらゆる時空を“詩”つづける」をモットーに、谷川俊太郎との競演イベント『俊読』や、
詩集『花火焼』など、紙誌、舞台、映像等、様々な媒体で作品を発表。
2020年2月、息子の一言を契機に東京から山口へ移住。
2022年、自伝詩集『詩人失格』を発表する。妻は講談師の神田京子。



牧野 将典 Masanori MAKINO

萩焼作家。牧野窯代表。1972年、長野県小諸市出身。
1995年、東京にてテレビ関連企業に就職。2000年、「萩焼をやろう!」と決意し萩に移住、
十二世 坂高麗左衛門に師事する。2004年から萩焼窯元「泉流山」で職人として勤務。
2011年から萩焼作家としての活動を始める。
2018年に独立し、萩市三見に登り窯を築窯。2020年及び2022年、田部美術館『茶の湯の
造形展』入選。フランス・パリで開催された展覧会『1000 Vases』に出品。
2021年、経済産業大臣指定伝統的工芸品「萩焼」伝統工芸士に認定される。

参加申込みのご案内

次のURLまたはQRコードからお申込みください

<https://x.gd/2bjTf>

申込締切: 2022年11月27日(日)



- ・ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、やむを得ず開催の延期や中止、開催方法の変更等を実施する場合がございます。予めご了承ください。
- ・ 会場及びZOOM定員各40名(申込先着順) / 定員に達した場合、参加をお断りする場合がございます。

A. 対面での参加をご希望の方

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止にご協力をお願いいたします。

B. ZOOMでの参加をご希望の方

- ・ 後日URL (ID、パスコード) を登録されたメールアドレス宛にご案内させていただきます。

お問い合わせは

山口県立大学 国際文化学部

地域文化創造論研究室

山口市桜島6-2-1-C536

☎ 083-929-6252

✉ y721ys310@mail.st.yamaguchi-pu.ac.jp
担当: 山本

本公開シンポジウム主催:



協力: 山口県立大学 地域共生センター

